

勤務医負担軽減計画(2024年度目標)

勤務医の勤務状況

○病院規模：338床

○常勤医師勤務時間：週38.5時間

部署	項目	現状の取り組み	2023年度の目標		2024年度の目標		目標達成のために必要な事項
				達成状況		達成状況	
医事課 診療情報管理室 医療支援室	医師事務作業補助体制の充実	医師事務作業補助者の業務を管理・改善するための責任者を設置する	<ul style="list-style-type: none"> AI問診の契約期間が満了するため、AI問診に代わるツールの導入を検討する。 引きつづき医師の業務軽減に努める。 	新たなシステムの導入は検討出来なかった。	システムの導入及び構築で、医師の業務軽減を図る		システムの導入
	診断書作成管理支援システムの運用の拡大	現状のオーダーリングシステムの文書管理システムを一部事務が補助している	<ul style="list-style-type: none"> 引きつづき診断書の作成を実施する。 	診断書作成は、ほぼ全数作成のために関与している。	引きつづき診断書の作成を実施する。		<ul style="list-style-type: none"> 医師事務作業補助者の選任及び必要に応じて新規採用を行う 医師事務作業補助者の配置(病棟、外来、医局)についての
	電子カルテの運用	電子カルテの充実を図る。	電子カルテの施設診療での使用の拡充と電子カルテのレベルアップを行い更なる充実を図る。	日々、医師・看護師等の意見から、適切な方法を検討している。セット組み、文書作成などより使いやすくなるように意見・要望について可能な限り対応した。	電子カルテの施設診療での使用の拡充と電子カルテのレベルアップを行い更なる充実を図る。		電子カルテシステムを最大限有効活用できるように意見を聞き改善を実施する。
地域連携室	地域の医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 他医療機関への診療依頼、情報提供依頼、(照会)、電話の取次ぎ、問い合わせの返答(添付データの準備) びわこメディカルネット利用のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各種依頼や問い合わせについて、医師がスムーズに返答できるよう電子カルテやびわこあさがおネットを活用しながら調整し、医師の負担軽減に努める。 医師の要望に応じて他医療機関の情報をいち早く収集し発信する。 びわこあさがおネットの利用のサポートをする。 他医療機関への紹介についてスムーズに受け入れて頂けるよう地連より先方へ口答で情報提供を先に行い確認調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種依頼や問い合わせについて返答がスムーズにできるよう調整を行い医師の負担軽減に努めた。 医師の希望に応じていち早く情報提供ができるよう情報収集に努めることができた。 びわこあさがおネットの利用について操作等サポートを行った。 他医療機関への紹介について、Drからの情報提供がすぐに書けない場合、先に地連より口頭で情報提供を行い、医師の負担軽減に努めた。 紹介や各種問い合わせの返答時、医師から指示された添付書類を準備し、医師の負担軽減に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各種依頼や問い合わせについて、医師がスムーズに返答できるよう電子カルテやびわこあさがおネットを活用しながら調整し、医師の負担軽減に努める。 医師の要望に応じて他医療機関の情報をいち早く収集し発信する。 びわこあさがおネットの利用のサポートをする。 他医療機関への紹介についてスムーズに受け入れて頂けるよう地連より先方へ口答で情報提供を先に行い確認調整を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 他の医療機関の情報収集に努め、必要時にスムーズな連携がとれるよう密接で良好な関係を構築する。
放射線科	遠隔読影システムの運用	画像検査のCT・MRIは高性能化に伴い1件の画像数が増え放射線科医師の読影負担も増大し読影効率にも影響が出ている。	遠隔読影システムの運用・調整で負担を軽減・分散し、放射線科医師の負担軽減を目指す。	定期読影が週7回のうち6回が遠隔読影で、読影総数7617件のうち遠隔読影数5685件と、74.6%遠隔読影システムを利用し来院読影医師の負担軽減が出来ました。	遠隔読影システムの運用・調整で負担を軽減・分散し、放射線科医師の負担軽減を目指す。		読影優先度を考慮し遅延が出ないように遠隔読影と来院読影で調整する。
	電子カルテでのオーダーの代行入力	電子カルテでのオーダーは医師が行っている。	電子カルテのオーダー代行依頼を受けた際に実施し、医師の負担軽減を目指す。	医師より口頭指示だけの際など指示を受けた技師が代行オーダーを行い医師の負担軽減が出来ました。	電子カルテのオーダー代行依頼を受けた際に実施し、医師の負担軽減を目指す。		操作手順を把握しオーダー内容(検査・データ入出力など)確認し、正確に代行オーダー発行をする。
管理課 総務課	院内保育所の充実	経営を外部委託し、職員が利用しやすい環境が整ったといえる。院内保育所を利用している医師は現在0名、子どもがいる医師は近所の施設を利用している	安心して出産・育児ができる環境を創出し、積極的にアピールし採用につなげるとともに、在職中の医師にも利用できることを周知する。	入職時や出産予定の医師に対して、院内保育所があることを積極的にアピールしている。	安心して出産・育児ができる環境を創出し、積極的にアピールし採用につなげるとともに、在職中の医師にも利用できることを周知する。		<ul style="list-style-type: none"> 制度の周知、アピール

部署	項目	現状の取り組み	2023年度の目標		2024年度の目標		目標達成のために必要な事項
				達成状況		達成状況	
管理課 総務課	子育てを行う労働者等の職業生活との両立を支援するための雇用環境の整備	就業規則等に制度を設けている子育て中の女性医師の当直を免除、または宿直を免除している育児休業利用実績 2名	ワーク・ライフ バランスに配慮した環境の整備と周知を行う 医師本人のワークライフに合わせた勤務ができるよう配慮する	本人の状況に合わせて必要な情報を個別にお知らせし、男性医師でも子育てに参加しやすい環境を整えている。	ワーク・ライフ バランスに配慮した環境の整備と周知を行う 医師本人のワークライフに合わせた勤務ができるよう配慮する		・採用時等に医師へのアピール、周知 ・ホームページへの掲載
	医師の増員	関連大学等に積極的に協力依頼を行っている	関連大学等に積極的に協力依頼を行う。 ホームページに最新情報等を掲載し、院内の動きをいち早く発信し確保に繋げていく。	採用につなげるために、院内の情報を積極的に発信している。関連大学と密に連絡を取り、医師の確保に努めている。	関連大学等に積極的に協力依頼を行う。		・医局との良好な関係と、医師就業環境の改善(働きやすい環境づくり)
	医師の提出書類の削減	手続き等の書類が大量にあり、わかりにくい書類は変更したり、わかりやすい説明をつける、直接対面での説明を行うなどの工夫をしている。電子化も進めている。	引き続き既存書類の見直しを行い、書類作成に係る時間を削減すると共に、電子化を進め、利便性の向上を図る	法改正による制度変更などは、該当者に対し、自分が該当者である事がひと目でわかるように、記名で書類を配布するなど、医師が情報を集めにいかなくても良いよう工夫している。	引き続き既存書類の見直しを行い、書類作成に係る時間を削減すると共に、電子化を進め、利便性の向上を図る		システムの導入
臨床工学科	オンコール体制による夜間緊急透析、急性血液浄化療法の対応	担当医師又は病棟よりオンコールにて臨床工学技士が対応している	・待機体制の確立。 ・病室での治療のためCE1名で対応(常駐)。	技士の待機体制は確立されていません。夜間・休日はCE1名で対応。病室での医療はCE1名常駐している。交代が難しい。	待機体制の確立。病棟での治療CE2名体制を目指す。		臨床工学技士の確保を目指す
	オンコール体制による夜間人工呼吸器装着	主治医又は病棟よりオンコールにて臨床工学技士が対応している	・待機体制の確立。	技士の待機体制は確立されていません。緊急時はオンコールで対応しているため多少到着にロスがでる	待機体制の確立		臨床工学技士の確保を目指す
薬剤部	手術・検査目的の入院患者の中止薬の確認について	医事課、外来看護師と協力して入院前面談(外来受診時)を実施	手術延期がないよう、依頼があれば100%入院前面談に介入したい。連携強化してトラブルも0件にしたい。	依頼がある面談については漏れなく行っている。連絡トラブルによりできなかった面談が数件あった。中止薬の止められなかった件数は0件	手術延期がないよう、依頼があれば100%入院前面談に介入したい。連携強化してトラブルも0件にしたい。		・薬剤師の増員 ・医事課、外来看護師の協力
	中止、変更の代行入力について	中止、変更ともやっているが不十分である	引き続き100%を目指して取り組みたい。	80%程度は行っている。	引き続き100%を目指して取り組みたい。		・薬剤師の増員 ・医師との連携
	持参薬	持参薬の確認はしているが患者が持参しなくて内容がわからず報告が遅れることがある。	引き続き予定入院患者100%を目指したい。予定外についても早めに確認できるように取り組みたい。	時間外においてもできる限り対応している。持参薬が切れる日などを把握して代替薬提案なども概ね行うことができている。	引き続き予定入院患者100%を目指したい。予定外についても早めに確認できるように取り組みたい。		・薬剤師の増員 ・医事課、外来看護師の協力
	薬剤管理	薬剤が切れる時期については薬剤師、看護師が確認している。	引き続き処方もれがないように努めたい。	一部、処方漏れがあったが概ね事前に処方できている。	引き続き処方もれがないように努めたい。		・薬剤師の増員 ・病棟看護師の協力
	外来患者手技指導	インスリン指導を実施している。	外来での薬剤の指導も充実するよう努めたい。自己注射以外の指導もできるように努めたい。	外来での指導は多くはないが依頼がある分は100%対応できた。	外来での薬剤の指導も充実するよう努めたい。自己注射以外の指導もできるように努めたい。		・薬剤師の増員 ・看護師の協力 ・指導場所の確保
臨床検査科	生理検査診療補助	超音波装置により心臓、腹部、頸部、下肢等の一部検査の実施と評価を行っている	引き続き依頼に対して100%対応実施。タイムリーにレポートを提出。全部位の検査対応可に取り組む。	医師からの依頼に100%対応、実施。残り一部位以外の検査対応可を達成。	引き続き依頼に対し、100%の対応・実施。タイムリーにレポートを提出。全部位の検査対応可に取り組む。		・精度の高いデータを提供するために外部精度管理研修会等へ参加する ・技師増員

部署	項目	現状の取り組み	2023年度の目標		2024年度の目標		目標達成のために必要な事項
				達成状況		達成状況	
リハビリテーション科	診断書関係の計測	診断書の筋力、ROM、ADLの計測	・引きつづき診断書関係の計測を実施。	依頼を受けた診断書の計測は100%受けさせていただいた	引き続き、依頼のあった各診断書の計測を実施する		
看護部	初診時の予診の実施	看護職員にて実施している。	引き続き実施する。	引き続きに実施できた。	看護職員にて実施する。		
看護部 事務部等	入院の説明の実施	看護職員、事務員等にて実施している。	入院案内、オリエンテーション(3-6病棟)動画作成予定。	継続的に実施できた。今年度から3-6病棟の入院案内を動画で作成し、運用している。	引き続き看護職員、事務員等にて実施する。		
薬剤部	服薬指導	薬剤師にて実施している。	自己注射以外の指導もできるように努めたい。	外来での指導は多くはないが依頼がある分は100%対応できた。	外来での薬剤の指導も充実するように努めたい。		・薬剤師の増員
看護部 臨床検査科	静脈採血等の実施 静脈注射	看護職員にて実施している。 臨床検査科にて実施している。	引き続き実施する。	引き続き実施できた。	看護職員にて実施している。 臨床検査科にて実施している。		
看護部	検査手順の説明の実施	看護職員にて実施している。	検査前処置の説明について動画作成予定。	引き続き実施できた。	検査前処置の説明について動画なども活用し看護職員にて実施す		
医療福祉相談室	退院調整	主治医からの退院許可があれば、速やかに対応している。	・退院に関わるスムーズな調整(転院、訪問看護、往診など)を行い医師の負担軽減を図る。	・退院許可が出る前から情報収集や手続きを行う等、スムーズな退院調整に向けて取り組んだ。	今後もスムーズへ繋がられるよう、取り組んでいく。		
	患者、家族への説明、理解促進	医療用語をわかりやすく伝えることで、医師からの説明に対する理解の促進を担っている。	・必要時に医師のICに同席し、医師の説明時間の短縮につながるよう努める。 ・本人、家族に制度説明を行い書類を医師に提示し、医師のペースで作成できるように補助する。	・ICに同席する他、病状等について医師に確認し、予め概要を家族へ伝える等して、家族が病状に対して理解しやすい環境を整えた。 ・各種書類の説明を行う他、記入事項の情報収集を行い、医師の書類作成がスムーズに行えるよう支	引き続き各種対応に取り組んでいく。		
	予約調整	診療や書類作成のために必要な情報を先に収集している。	・認知症専門外来への予約調整および基本情報の収集を行ない、診療時間の短縮につながるよう補助する。 ・精神科外来新規予約患者の調整および基本情報の収集を行ない、診療時間の短縮につながるよう補助する。	・認知症専門外来の予約や基本情報の収集を行い、診療時の確認事項を減らせるよう取り組んだ。 ・精神科外来新規予約患者の受診相談、情報収集を行い、診察までに医師が確認できるように取りまとめ、診察時間短縮の支援を行った。	引き続き、各外来の予約調整や情報収集を行い、医師の診察時間短縮を支援していく。		
栄養科	治療食の提案	入院時や入院中の状態を評価し、一般食から治療食への提案を実施している。	多職種との連携、情報収集をおこない早期から食事の提案をする。	他部署と連携をとりながら実施	引き続き実施		人材育成
	経管栄養剤の提案	経腸栄養療法について、医師から相談があった場合に種類や量について提案している。	NSTと連携し患者さんに適切な栄養剤を引き続き提案する。	スタッフ間で共有して提案をおこなった	引き続き実施		人材育成
	NST介入	NST回診で、栄養量評価を行い再評価しながら患者さんの栄養改善に努めている。	回診時には事前準備をおこない摂取量や状態を把握して、食事の提案を行う。	実施	引き続き実施		介入依頼、スキルUP